

平成 22 年 6 月 吉日

日本温泉療法医会会員 各位

平成 22 年度近畿地区研修会代表幹事
有馬温泉病院 院長 藤堂 彰男

平成 22 年度日本温泉療法医会近畿地区研修会のご案内

青葉若葉のみぎり、皆様方には益々ご清栄の事と心よりお慶び申し上げます。平素は日本温泉療法医会の活動に多大なお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。早速ながら上記研修会の開催につきご案内申し上げます。今年度は 10 月 16 日～17 日の両日、関西の奥座敷、有馬温泉にて日本温泉療法医会近畿地区研修会を開催いたします。有馬温泉は日本三古泉の一つで、神話や日本書紀にも登場する日本最古の温泉であります。

講演内容は別紙に記載しておりますが、この度は色々な分野でご活躍の権威の先生方をお迎えし、皆様方のご期待に沿えるような多彩な演題をお願いいたしました。また、今回は療法医会会員以外の医師やリハビリテーション部など、コ・メディカルの方々のご参加も歓迎いたします。一日目の研修終了後、皆様方同士の交流を図るため、懇親会を計画しております。このたびの研修会及び懇親会会場の銀水荘別館「兆楽」は各界の著名人が数多く訪れる関西屈指の高級旅館であります。懇親会にもご参加頂きぜひとも有馬温泉の良さを知っていただければ幸いです。

記

日時 平成 22 年 10 月 16 日 (土) 14:30～
平成 22 年 10 月 17 日 (日) 9:30～12:40
場所 兵庫県神戸市北区有馬町 1654-1 銀水荘別館「兆楽」
TEL 078-904-0666 FAX 078-904-3306
開催要領：裏面の通り

参加お申し込み（講演会、懇親会、宿泊）は同封の申し込み用紙にご記入の上、FAX または郵送にて 8 月 10 日までに下記の現地事務局 長谷川までご回答下さいます様、お願い申し上げます。

諸費用について。

- 1：講演会参加費 2日間通して 2000 円。
- 2：懇親会 13000 円（尚、「兆楽」御宿泊の方は宿泊費に含まれます。）
- 3：宿泊費 銀水荘別館「兆楽」一泊二食にて 21000～40000 円。

（ご利用人数により料金が変わります。ご予約、お問い合わせは「兆楽」へお願いします。その際「温泉療法医会による宿泊」とお伝え下さい。）

現地事務局
〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町字山田山 1819 の 2
有馬温泉病院 担当 長谷川（役員室）
TEL 078-904-3321 FAX 078-904-0172

平成 22 年度日本温泉療法医会 近畿地区研修会「開催要綱」

「日時」 平成 22 年 10 月 16 日（土）、17 日（日）

「場所」 〒651-1401 神戸市北区有馬町 1654-1

有馬温泉 銀水荘別館「兆楽」 TEL 078-904-0666

「研修会会場費」 2000円

テーマ： 温泉及び医療の歴史と未来に向けて

10月16日（土） 受付：14：00～

14：30 日本温泉療法医会会長 勝木道夫先生 ご挨拶

有馬温泉病院 松浦 役児 理事長 挨拶

特別講演 司会 有馬温泉病院院長 藤堂 彰男

15：00～16：15（質疑15分）

特別講演1 兵庫医科大学 リハビリテーション部教授

道免 和久 先生

演題「ニューロリハビリテーション ～特にCI療法について～」

16：30～17：45（質疑15分）

特別講演2 京都大学名誉教授 日本温泉科学会会長

西村 進 先生

演題「有馬温泉湧出メカニズムの疑問とその解明」

19：00～ 懇親会 於 有馬温泉 銀水荘別館「兆楽」

當谷 正幸 社長 ご挨拶

10月17日（日） 受付：9：00～

講演 司会 有馬温泉病院院長 藤堂 彰男

9：30～10：45（質疑15分）

特別講演3 岡山大学医学部名誉教授 勝山病院 内科

谷崎 勝朗 先生

演題「慢性呼吸器疾患に対する温泉療法」

11：00～12：40（質疑10分）

特別講演4 園田学園女子大学名誉教授

田辺 真人 先生

演題「歴史の中の有馬温泉」

閉会 12：40

温泉及び医療の歴史と未来に向けて

特別講演講師の御紹介と御講演抄録

1: ニューロリハビリテーション～特にCI療法について～ 道免 和久先生

略歴： 福岡生まれ。 昭和61年慶応義塾大学医学部卒。リハビリテーション科学を専攻。 各種医療施設責任者を経て、平成8年 Pennsylvania 州立大学及び ATR Human Information Processing Research Laboratory に留学（計算論的神経科学、バイオメカニクス、運動制御論を学ぶ。） 平成12年兵庫医科大学助教授、平成17年同リハビリテーション医学教室教授。

日本リハビリテーション医学会評議員、バイオメカニクス学会評議員、電気生理運動学会理事。

業績：「CI療法—脳卒中リハビリテーションの新たなアプローチ」執筆、編集。

「リハビリテーション評価データブック」執筆、編集。 ADL 評価法 FIM の日本導入（翻訳等）脳卒中機能評価セット（SIAS）の作成。「最新包括的呼吸法リハビリテーション」編集など。

研究テーマ：脳卒中のリハビリテーション、機能評価学、予後予測学、運動抑制と運動学習、ニューロリハビリテーションとCI療法など。

抄録：ニューロリハビリテーションは一般に神経疾患（Neurological diseases）のリハビリを指すことが多いが筆者は「先端の脳科学をリハビリの臨床に応用した Neuroscience based rehabilitation」と定義している。その中で最も注目され確立した EBM として臨床で広く利用されているのが CI 療法「Constraint-induced movement therapy」である。脳卒中片麻痺の CI 療法は健側上肢を三角巾などで拘束し、麻痺側上肢を強制的に使う状況を作り出して、段階的訓練項目で短期的集中的に治療するが最近、訓練で改善した機能を日常生活に汎化させる行動戦略（Transferpackage）が注目されている。CI 療法は、健側拘束による「特訓」のイメージが強いが実際には運動学習を要する各種キーワードを基に極めて丁寧、且つ繊細な治療法ととらえる方が正しい。CI 療法のメカニズムとして、学習性不使用 learned non-use の克服や、使用依存性脳可塑性 use-dependent plasticity が関与していると考えられている。CI 療法は四半世紀以上の歴史があり、CI 療法により脳に可塑性変化が起こることは動物実験でも実証済みであるがヒトでも f-MRI などの脳機能画像による報告も増加しており、その他のエビデンスも充分にあり脳卒中治療ガイドライン（2004）にもグレードAとして記載されている。米国7施設共同プロジェクトの結果ではCI療法による患側上肢機能の改善、日常生活での使用頻度の増加、手指使用困難感の改善、1年後の効果の持続などが報告されている。わが国では筆者が2003年よりCI療法を導入し当教室を含めた3施設で現在まで約130例に実施してきた。1日5時間で10日間の訓練とし、1時間程度のマンツーマンの治療以外は自主訓練としているが、治療効果は諸外国と遜色ない結果となっている。MAL（Motor Activity Log）の様に麻痺側上肢のADLの改善と言う視点に立った評価法で改善が著しく、今まで顧みられなかった要素でありCI療法を実施する事はわが国のリハビリ医療のあり方を考察するよいきっかけとなる。すなわち、1) 健側機能向上と麻痺の回復とのバランス、2) 「ADL向上至上主義」、3) 課題指向的、段階的、集中的訓練の重要性、などである。リハビリ医療の目的は患者のQOLを高める事であり、そのためにはこれらの多次元的な要素を考慮すべき事を再認識したい。

2: 有馬温泉湧出のメカニズムの疑問とその解明： 西村 進先生

略歴：京都大学理学部、大学院卒業。大阪府立大学、京都大学教授を経て平成8年に定年で名誉教授。現在 NPO シンクタンク京都自然史研究所所長、日本温泉科学学会会長を務めている。日本、インドネシアの火山から見たテクトニクスの解明に努め、最後の産物である温泉に興味を持ち、温泉の成因の解明、特

に火山活動のない近畿地方の高温温泉について研究を進め有馬、南紀白浜温泉湧出の仕方の解明を行った。
抄録：有馬温泉特に金泉の成分に関する特殊性としてその成分には地殻より内部にあるマンツルの成分が含まれている。現在の火山活動の起こっていない所なのでマンツルの中で水が関与するためには水を持ち込む構造が必要である。これには大陸性地殻の縁から、地下にもぐりこみマンツルに沈みこんでいく海洋性地殻（スラブ又はプレート）の脱水の機構が関与している。この脱水は静水圧にのみ依存する。静水圧が60 km深度までであると蛇紋岩からの脱水に当たる。この深度では溶岩やマグマを形成する温度には至っていないが、水は超臨界流体でありマンツル内の物質を溶かす液体の性質と移動しやすい気体の性質を併せ持っている。比重は水と水蒸気の間であり比重が低いのでマンツル内を上昇しやすい。地殻下部で溜まり貫入岩周辺のゆるみ域から上昇し深度14 kmで地殻内の活断層に到達して地表に上昇するがそこに至るまでのシナリオを説明する。【注：地球の構造 地殻5~30 km（大陸及び海洋性）、マンツル2900 km深度、核（下部地球の中心部分）】

3：慢性呼吸器疾患に対する温泉療法： 谷崎 勝朗先生

略歴：昭和30年岡山大学医学部卒業 昭和61年岡山大学三朝分院教授、
平成15年三朝医療センター長（併任）、平成17年定年退職、岡山大学名誉教授
中国中央病院長を経て現在、勝山病院内科部長。日本温泉気候物理医学会理事、日本内科学会理事を経て日本呼吸器、老年、アレルギー学会評議員などを歴任。

抄録：慢性呼吸器疾患は換気機能から閉塞性と拘束性に分けられるが温泉療法が有効なのは気管支喘息や肺気腫を含むCOPDなどの閉塞性換気障害を示す症候群であり肺繊維症（間質性肺炎）など拘束性には有効性はない。気管支喘息ではアレルギー反応の関与が少ない高齢者喘息に対してより有効性が高い。又、肺気腫では初期の段階での有効性が高く進行例には通常行われぬ。これら症候群に対する作用機序として気道の浄化作用による喚起機能の改善が観察された。今回温泉療法として使用されたのは温泉プール水中運動（水泳ないし歩行運動）、背中への鈷泥湿布療法及びヨードゾル吸入療法などであった。

4：歴史の中の有馬温泉： 田辺 眞人先生

略歴：神戸生まれ（昭和22年）。関西学院文学部史学科卒業。平成1年より5年間ニュージーランド政府教育省、国立マッセイ大学勤務。園田学園女子大学教授を経て、同名誉教授。宝塚市教育委員長、神戸学院大学客員教授兼任。神戸市文化賞、兵庫県文化功労者表賞、ロドニー賞受賞。

NHKテレビ「兵庫史を歩く」、サンテレビ「好き！神戸」の講師、歴史解説者などを務めラジオ番組にも出演。

「神戸の伝説」、「神戸人物史」、「ニュージーランドの風土と生活」、「宝塚市大事典」など編著書、共著書多数。

抄録：有馬の温泉は白浜や道後温泉と共に現存する日本最古の書物類に記載され、日本三古湯と称される他、古代や近世にも全国的な三名泉に数えられてきた。舒明天皇はじめ藤原道長や後白河法王のような古代の政治家、藤原定家や慈円のような中世の文人、足利將軍や一向宗の蓮如が入湯した。中でも有馬を好んだのが豊臣秀吉でおよそ10回もこの地を訪ねている。近世には京や兵庫、丹波からの街道の合流点として賑わい、おおくの旅人が逗留した。江戸時代の人々が高濃度のナトリウム泉を芦屋の浜から六甲山地の下をくぐって熱せられた塩湯だと少子、炭酸泉を毒水だと考えた事を、近世の地誌が伝えている。長い歴史の中では地震、火災などの天災のため有馬は何度か埋没中断と復興繁栄を経験した。そのような歴史を反映した伝説も豊かであり古代からの有馬の歩みについて考えてみたい。

平成22年度 日本温泉療法医会 近畿地区研修会 参加申込書

FAX 078-904-0172
(締切り：8月10日)

ご芳名：1 代表者名

2.

3.

ご連絡先住所：

お電話：

FAX：

以下の項目について該当する部分に丸印をつけてください。

<ご参加の有無>

研修会：(16日のみ。17日のみ。両日とも。)

・参加する (名様) ・参加しない

懇親会： ・参加する (名様) ・参加しない

宿泊 ：銀水荘別館「兆楽」に ・宿泊する ・宿泊しない

※有馬温泉駅から会場までは兆楽の送迎バスが利用できます。
お問い合わせは、「兆楽」(078-904-0666)までお願いします。

ご参考までに有馬温泉地域の観光地図、交通案内、宿泊施設の一覧表を同封致しましたのでご参照下さい。宿泊のみでも可能な施設もあるようです。有馬温泉街は歴史的背景に触れた様々な見所もあり、短時間に効率よく歩いて巡る事が出来ます。観光地図にある観光総合案内所にお問い合わせ頂ければ有益な情報が得られると存じます。

・ご質問等ございましたら下記の事務局までお問い合わせ下さい。

現地事務局

〒651-1401 兵庫県神戸市北区有馬町字山田山 1819 の2
有馬温泉病院 担当 長谷川 (役員室)
TEL： 078-904-3321 FAX：078-904-0172